

『雨ニモマケズ』の詩の中で、宮沢賢治が大切にしていた言葉とは何でしょうか。その答えは次の文中にあります。

東ニ病氣ノコドモアレバ
行ッテ看病シテヤリ
西ニツカレタ母アレバ
行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
南ニ死ニサウナ人アレバ
行ッテコハガラナクテモイノトイヒ
北ニケンクワヤソシヨウガアレバ
ツマラナイカラヤメロトイヒ

宮沢和樹(賢治の弟清六の孫・林風舎代表取締役)によると、それは「行ッテ」という言葉でした。宮沢賢治は、その場所に行つて自分の身をおくことが大事であると考えていました。そこに行つたこと、そこに来てくれたこと、それが大切なのです。悲しみに打ちひしがれている現場に行くと、本当の世界が見えてきます。

日本医科大学付属病院医師の澤倫太郎という親友がいます。その澤医師に、この賢治が大切にしていた言葉について話したら、彼は「心算してくれました。私は毎日いろんな患者さんに会う。検査結果にショックを受けた人、治療を信じ夢を抱く人、難病の人……。さまざまな患者さんのもとに行く。行つて患者さんの診察をし、行つて患者さんと話をします。「行ッテ」というのは、そこに行つた時だけではない。行く前から相手との出遇いが始まっている。進み始めた一歩一歩の中に、相手の気持ちに歩み寄ろうとする自分の気持ちがある。自分が相手の気持ちに歩み寄れば、相手は待っていてくれる。最初はわかりあえなくても継続的に患者さんのもとに行くうちに、相手が

『雨ニモマケズ』のこころ



鍋島 直樹
(龍谷大学文学部教授)

心を開いて『先生、ありがとう。実は……』と胸襟を開いて話してくれるようになる。そう澤医師は話してくださりました。医師でも、僧侶でも、誰でも、大事なものは行くことなのです。そして「行ッテ」というのは、そこに行くプロセスも大事です。思い切つてそこに行こうと決心した時には、まだそこに到達していません。訪ねていく一歩一歩の中に思いがけない気づきや絆が生まれます。じっとしては何も開かれない。また、「西ニツカレタ母アレバ 行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ」とあります。これは仕事で疲れたお母さんのもとへ行つたら、お母さんが笑顔で待っていてくれたのでしよう。自分が親の所に行つて何かをしてあげるのでなく、行けば「よく来てくれたね」と親がわが子を両手で迎えてくれる、そこに相手のぬくもりがあるので「行ッテ」というのは自分の身体が行くだけでなく、心が相手に寄り添うのです。

『雨ニモマケズ』の詩は、昭和6年「11月3日」に書かれたとされます。それは昭和8年9月21日に賢治が亡くなる2年ほど前の詩です。からだが思うようにならない賢治が強く願っていたことがその詩に表れています。病気の賢治は、たくましくからだを持ち、病氣の子どものところに、疲れた母のところに、死にそうなる人のところに、けんかや訴訟があるところに、「行ッテ」あげたいという志願をもっていたのです。

実際には、賢治は肺病が進行し、人のためにできることが少なくなっていました。「行ッテ」には、行きたくても行けない悲しみがこもっています。しかし、「行ッテ」は、病氣のからだであったからこそ、生まれた願いでもあったと感ぜられます。何もすることができなくても、ただそばにいて「イツモシツカニワラッテキル」、そういうものになりたかったのでしょうか。病気で動けなくても、そこにいることは大きな力を相手に与えることがあります。実際、賢治は亡くなるその日まで、農業の肥料について相談に来た人に、からだを起して助言しました。そうした相談に応えられたことは、病氣の賢治にとって、何よりもうれしいことではなかったかと思えます。誰かに必要とされていることが自らの存在意味となるからです。

「行ッテ」という行動は、一方的な犠牲ではありません。相互の愛情が深く重なりあうことです。宮沢賢治は自らの理想とする菩薩精神を、自己犠牲の精神というようには一度も表現していません。本来、菩薩の実践は、自利他圓滿の安穩をめざしています。我を先とし我を軸とする自我的方向を転じて、相手を先とし世界全体の幸福を軸とする利他的な方向に、自己の生き方が置かれるとき、それが菩薩の行といわれるのです。しかも、その菩薩の実践は永遠の未完成であることとを内に含んでいます。なぜなら死別を免れることができないように、とれほど相手を思うことも、何もなしえないことがあるからです。だからこそ終わりのない情熱をもって、すべてのものの幸福のために生きようとするその過程が重要であり、永遠に未完成の行として道を歩みつづけるうちに、菩薩の利他愛があります。宮沢賢治のめざした幸福像は、相手の幸せに自己の幸せを感得するような生き方です。大悲にぬくめられた自己が、自利他他の安穩のために、骨をくだいて尽くそうとするところに、力強い生き方がうまれるのではないのでしょうか。

写真・林風舎

謹賀新年

真言宗・天台宗各本山御用達
密教仏具専門店

株式会社 田中伊雅佛具店

〒600-8453 京都市下京区万寿寺西洞院東入ル
電話075(351)2584(代) FAX075(341)8822 フリーダイヤルFAX0120(51)0414
<http://www.tanakaiga.com>

